

あいあいあい

I eye 愛

2023年

11月号



「シャボン玉フォーラム in みやぎ」へのご参加 ありがとうございます!!

2023/09/30 全国のせっけん運動仲間と共に

先人たちの言葉に衝き動かされながら
自分たちのメッセージを紡いでいこう

シャボン玉フォーラム in みやぎ 実行委員長 原子 良恵

9月30日(土)に、せっけん運動ネットワーク(※)の年に一度の全国集会『シャボン玉フォーラム』を、あいコープみやぎが受け入れ団体となつて開催しました。全国から、会場140名、オンライン120名の参加があり、全国の石けん運動を行う皆さんと情報交換や交流をすることができました。

あいコープみやぎは、合成洗剤を扱わない、石けん派生協です。なぜ石けんなのでしょう。

私たちはシャボン玉フォーラムを前に、組合員から「せっけんアクション」を募集しました。一人一人の小さなアクションを大きなものに変えようという取り組みです。お子さんが生まれたことをきっかけに石けん生活に変えたなど、組合員の小さいけれどたくさん取り組みが寄せられました。その中に本紙「あいあい」に寄稿された、吉武洋子さん(あいコープみやぎ元理事長)の一文に対する感想が寄せられ

ていたのです。それは「被害者にも加害者にもならない、農薬が駄目なら同様な成分を持つ合成洗剤も駄目、こんな簡単なことが何故通用しないのか不思議です。」

(あいあいあい4月号「石けん運動をももばなし」より)……この文章を読んでハッと気づかされました、というコメントでした。生活や意識の変革は、本当に些細な言葉や体験から起こるものです。そのきっかけづくりがこのシャボン玉フォーラムであり、私たちの日々の活動なのだと思います。

私の石けん運動の原点、活動の源もまた「石けん運動は石けんを使用する運動ではない、台所から社会を変える運動なんだ」という、吉武元理事長の言葉です。受け継がれていく「なぜ石けんなのか」の問い。その答えは十人十色かもしれませんが、根底にあるものをあらためて組合員みんなで考え、普段使うものを選択していきましよう。

※せっけん運動ネットワーク
石けん使用を入りに、環境保全を目的として活動する団体。あいコープも加盟している

CONTENTS

▶天童りんご園地見学ツアー
▶大郷交流田稲刈り報告

…2
…3

▶シャボン玉フォーラム報告
▶あいコープで冬の贈り物

…4-5
…6

▶地域の福祉活動を応援します
▶生産者さんにあいに行こう ながめやま牧場

…7
…8



4年ぶり！天童りんごバスツアー

やっぺしりんごのふるさとを見に行きました

天童果実同志会のりんご園地バスツアーが4年ぶりに開催されました。バスツアー参加者は全部で25名。仙台から約1時間半バスに揺られ天童へ。今年のツアーが以前と違うのは、あいコープ組合員の「オーナー園地」の見学があること。2013年から「やっぺしりんご」と名づけたネオニコチノイド系農薬（以下ネオニコ）不使用りんごにチャレンジを続ける天童果実同志会ですが、昨今の異常気象も相まって、ネオニコを使わざるを得ない年が続いています。そんな中でもネオニコ不使用の灯を消さないために、オーナー制を導入。組合員オーナーが定期的に園地まで通い、生産者とネオニコ不

使用のりんごの世話をしています。バスツアー参加者はまずオーナー園地を訪れ、一足先に集合していた15名のオーナーと合流しました。

その後、全員で紅玉やラ・フランスの園地を歩いて見学しました。生産者さんに説明してもらいながら、照り付ける太陽の下を歩きました。昼夜の寒暖差で「果物の名産地」となっていたはずの天童ですが、今年は夜間になっても暑さが引かないのが生産者の悩みの一つです。園地では通常起こり得る虫の被害や病気のために、日焼けで傷ついてしまったりんごや、そのせいで輪紋病という病気になってしまった実を見せてもらいました。



園地を見学



賑やかに交流会



婦人部特製の芋煮



見学の後の交流会では、天童果実同志会婦人部の皆さんが、あいコープの産直牛で山形風芋煮を作ってくれていました。テーブルの上にはもぎたてのフルーツや地元のお漬物も並び、一同お腹いっぱいいただきましたながら、生産者と交流できました。あちこちから笑い声が飛び交い、組合員と生産者がかなり近づけた楽しい時間となりました。

理事 鈴木 真奈美



オーナーのりんごの木の前で記念撮影

第1回総代懇談会 開催報告

総代13名が参加、熱い思いを共有しました

9月25日、今年度1回目の総代懇談会が理事会の主催で開催され、総代13名と理事8名が参加しました。

総代懇談会は、あいコープの事業と活動の方針を盛り込む「議案」作りに向けて、組合員の意見や要望を吸い上げるための場として昨年度より実施されています。事前のアンケート結果をもとに参加者を2025年ビジョンに

基づいた「人」「食」「環境」「協同の力」の4グループに分け、それぞれのグループを理事が運営する形で意見交換が行われました。

「あいコープから地域福祉サポーター補助金を受ける団体の、活動内容のシェアがあるといい（人）」「遺伝子組み換え問題について議案書に書き続けてほしい（食）」「水道民営化の問題について取り組んでほしい（環境）」「ジョイケアと連携して子育てサークルができたらいい（協同の力）」など、理事会への希望や要望も出され、活発な話し合いが行われました。出された意見については現在理事会で検討が行われています。

年明けには第2回目の懇談会を予定しています。今回参加できなかった方、また総代でない方も見学可能ですので、ぜひ多くの組合員の参加をお待ちしています。

理事 石井 朱里



【食】チームのグループワークの様子

厳しい暑さ乗り越え 迎えた稔り

大郷 無農薬交流田の稲刈り



手順を説明してもらい、組合員、職員、生きもの調査で活躍中の大学生とで稲刈り開始。大人も子どもも鎌を持って、稲を刈る人、刈った稲を紐で束ねる人、天日干しするところに運ぶ人と、皆で手分けして作業をしました。

田んぼにはバッタやカエル、トンボなどがいっぱい。「いつもなら稲刈りの時期にはカエルはもう冬眠準備なのに...」と西塚さんがおっしゃっていました。

首を垂れた沢山の稲に、途中「このままじゃ終わらないかも!」と皆でペースアップ。なんとか午前中に全て刈り終え、大郷みどり会さんからの差し入れ、炊き立ての新米をいただきました。疲れた体に染み渡る美味しさでした。

11月には天日干しをした稲を脱穀します。脱穀してどのくらいの収量になるか楽しみです。

理事 佐藤 あきな



手分けしてワイワイ作業



このまま一ヶ月天日干し

「えんのう」さんと一緒に♡

親子で芋掘り

10月7日(土)、七郷体験圃場にて2回目となる親子さつまいも収穫体験を行いました。今年はいいコープの農産活動で田んぼの作業に参加している皆さんにオプショナル企画として呼びかけ、集まった8組の親子が仙台えんのう倶楽部(以下「えんのう」の皆さん)と作業しました。当日はえんのうの皆さんが、長く伸びたさつまいもの茎や葉っぱの部分を切って収穫しやすくし、準備万端で迎えてくださいました。

受付を済ませた家族から圃場に入り、えんのうの皆さんから掘り方を教わりました。お芋を傷つけないように両手でそっと土をかくと、鮮やかな紫色の芋が顔を出し、参加者のテンションが上がります!丸々と太ったお芋や、ひよろひよろと細いお芋、色々な形のお芋がでてきました。株によつて、お芋が沢山実っているところ、そうでないところがあり、「掘ってみてのお楽しみ」というのも楽しいものです。



えんのうさんが手取り足取り...



いっぱい掘れた!

大人も子供もせっせと掘って達成感や満足感でにこやかなお顔で活動を終えました。帰り際には、お芋の保存方法や、茎の部分も食べられることなどを教えていただきました。

苗の定植から栽培管理、当日の見守りや対応までいただいた仙台えんのう倶楽部の皆さんに心から感謝です。

理事 太田代 一世

①【基調講演】水中写真家・鍵井靖章氏 ～青い地球の生命の物語～

水中写真家として世界中の海に潜り撮影した様々な生き物の写真と、その撮影秘話からお話は始まりました。深海から浮かび上がってくる巨大なザトウクジラの親子、人間に興味津々のアシカの子ども…一つ一つの出会いを感情豊かに関西言葉で話す鍵井さんはまるで少年のよう。一方で、網が首に絡まってしまったアシカやプラスチックの輪が口にはまってしまったサメなど、「きれい」「かわいい」ばかりでない写真も。人が捨てたものにより被害を受けている生き物と出会うことは決して珍しくないそうです。

そしてお話は東北の海へ。鍵井さんは3.11大震災の直後から岩手県の海に潜り続け、同じ場所を記録し続けてきました。津波の翌年、瓦礫が積み重なった海底で小指の先ほどのかわいらしいダンゴウオを発見した時の感動や、時間の経過とともに海の力によって分解され、あるいは覆われていく、海底の車や瓦礫の様子。写真と語りから鍵井さんの複雑な思いが伝わってきます。

そんな海の中の風景を撮影し続けて10年。この先の方向性に悩んでいた鍵井さんは11年目の海で転機を迎えます。何気なくフラッシュをたいて撮影した海底の岩礁。そこには色とりどりのカイメンやイソギンチャク、そこに棲む小さな生き物たちの「世界中でここにしかない」色鮮やかな世界が広がっていたのです。東北にすむ私たちも知らない豊かな海がここにはある。そのことをぜひ知ってほしい、というメッセージを受け取りました。

最近は撮影のあと海岸でごみ拾いをしていて、仲間達も喜んで参加してくれるそう。心温まるエピソードと満場の拍手で講演会は締めくくられました。



講演する鍵井靖章さん



【鍵井 靖章さん】
水中写真家・伊藤勝敏氏に師事し1998年よりフリーランスフォトグラファーとして独立。世界中の海で生き物の撮影を行う。3.11後は東北の海の撮影をライフワークの1つとしている。



② 鍵井氏パネル展

9月30日（土）仙台市福祉プラザにて、せっけん運動ネットワークの全国集会「シャボン玉フォーラム」が開催されました。今年はいいコープみやぎが受け入れ団体となり、コロナ禍を経て実に4年ぶりとなる対面形式での大会には、全国・県内各地から石けん運動の仲間総勢260名が集いました。

〈開催報告〉

2023 シャボン玉フォーラム inみやぎ



色鮮やかな海中写真の数々が
大勢の人が見入っていました。



書籍販売コーナーで
サインに応じる鍵井さん

③ パネルディスカッション ～テーマ:「海」～

****パネリスト****
水中写真家 鍵井 靖章さん
重茂漁業協同組合女性部 盛合 敏子さん
株式会社アーダ・ブレン 佐藤 圭さん
あいコープみやぎ理事長 高橋 千佳さん
〈ファシリテーター〉
実行委員長 原子 良恵さん



生命の源であり排出物の行き着く先でもある「海」。パネルディスカッションの話題は多岐に渡りました。一部をご紹介します(敬称略)。

●石けん運動への想い

重茂は石けんのお陰で今がある。安全で安心な生産物を届けなければいけない。自分達が海を守っているという意識で、それを繋いでいる。(盛合)
アーダ・ブレンでは水だけではなく、人や生物に影響を与える物質を使わない日焼け止めを扱っている。家庭の排水口は海に繋がっていることを、商品を通して伝えている。(佐藤)

●海のプラスチック問題

潜った後に海岸のゴミ拾いを行っているが、漁業関係のゴミも多いと感じる。先日北海道の漁業関係者の前で講演をしたが、若い漁師さんから変わろうとしているとの声を聞くことができた。今後水産高校などに行き講演をしていきたい。(鍵井)

●アルプス処理水海洋放出

震災後10年の漁業関係者の努力が水の泡なのではないか。反対運動が実らず海洋放出が始まったことは、本当に悲しくがっかりしている。あいコープでは海産物についても「計って食べる」ことを続け、漁業生産者を応援していく。(高橋)

④ せっけん運動ネットワーク交流会

交流会は仙台駅前の会場に移動し行われました。せっけん運動ネットワーク会員が一堂に会するのは実に2019年以来となり、美味しい食事とお酒をいただきながら大いに盛り上がりしました。幹事会メンバー紹介に始まり、会員5団体からの活動報告、そして次回開催地であるグリーンコープ生協ひょうごへのバトンタッチが行われました。

あいコープみやぎからはリサイクル石けん「さいかち」の新たなスタートを報告しました。



わだいの
たねまき



9/3 エコフェスタ2023 @勾当台公園市民広場

まだまだ残暑厳しい9/3（日）、勾当台公園にて「エコフェスタ2023」が開催されました。このお祭りは環境を守る活動をしている団体や企業が集まってその取り組みを広く市民に知ってもらい、その輪を広げる狙いで毎年行われています。あいコープでは脱原エネシフ委員会がおなじみの鍋布団で冷たい麦茶を保冷し冷蔵庫の開け閉めを減らす工夫をお伝えしました。麦茶を試飲した方々からは「十分冷たいね」との声。他に節電のヒントになる写真の展示や節電クイズなど、若い方も興味を持って話を聞いてくれました。

理事 櫻井 洋子



家庭でできる省エネを解説

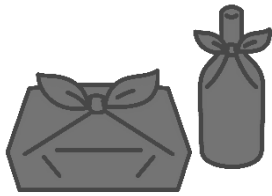
9/29 宮城県生協連集会 アピール行進

9/29（金）東京エレクトロンホールで開催された「消費者のくらしと権利を守る第44回宮城県生協組合員集会」には来場者260名、オンライン80名が参加。あいコープみやぎからは産地応援隊、2023シャボン玉フォーラムinみやぎについて報告しました。子どもの貧困、自然エネルギー、平和の大切さについての各講演は大変興味深い内容でした。伊東洋平さんのコンサートでエネルギーチャージ！爽やかな秋晴れの下、アピール行進では150名が「原発反対」や「灯油値上げ反対」などの集会決議を市民に伝えました。

理事 藤田 紀子



あいコープののぼり旗を持ってアピール



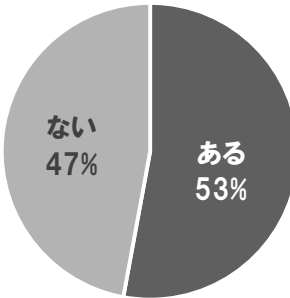
大切な人に 確かなものを 贈りたい あいコープでギフトしよう



あいコープのギフトについて、地区委員さんの声を集めました。
みんなの贈り物エピソードをご紹介します。

Q、あいコープのギフトを 贈ったことがありますか？

(回答数 34)



ほぼ半数だ～



Q、何を贈りましたか？ あなたのエピソードを教えてください！

調味料

PBあいシテルの
セットもあるよ



調味料、いろいろ入っていて美味しかったよ～と言ってもらえました！

食の安全について私に色々教えてくれた友人が、他県に引っ越してしまったので、調味料セットを贈りました。「とても美味しくて地元の思い出したよ」と、喜んでくれました。

他では買えない調味料なので喜ばれます。安心できるもの、毎日使えるものですね。

くだもの

天童や無茶々園の
産直くだもの！



毎年、りんごや洋梨を贈って喜ばれてます。

みかんはお供えにした後に毎日少しずつ食べてもらえてるみたい。

お子さんのいる家にはジュースが好評！

肉類

産直肉やハム・ソーセージも人気



両親に産直肉を贈ったら「とびきり美味しいお肉だった」と連絡が！

弟夫婦に産直肉を贈りました。妊娠中のお嫁さんに、特に良いものを食べて欲しくて(^^)

海産物

石巻や塩竈のお魚
練り物も人気



いつも注文するものより厚切りの切り身や、干物の種類が増えたりと、ギフトだけの商品を楽しみにしてます！

千葉産直のお魚の缶詰が美味しかったと好評でした！「安心と美味しいものをありがとう」って...

高橋徳治商店の練り物セットを贈ったら、「おとうふ揚げの包装デザインもいいね」って感想を伝えてくれた。

商品の良さをわかってくれる人や、自分の大切な人に、自信を持って贈っているという意見が寄せられました！

今年のギフトチラシは10/22～届いています。早期割引もお見逃しなく！

(商品画像は全てイメージ)

組織概要

(2023年9月分)

【組合員数】	16,707名
【供給高】	232,261千円
【一人実利用高】	5,506/週
【出資金】	1,357,119千円

▼シャボン玉フォーラム inみやぎの振り返りを行った▼2023年度第1回総代懇談会の総括を行った▼ジョイケア10年節目祝い企画案を承認した▼産地応援し隊交流会企画案を承認した▼Wa!わあ祭り実行委員会報告を承認した▼石けん工房・は・わ応援金カンパの結果を確認した。

2023年10月3日
(火)

理事会議事録抄

ちょっと
ひとこと

初めて参加させていただいて、楽しく生産者さんとお話することができました。これからはひとつひとつの野菜でも果物でも、大切に食べたいと思います。(天童りんご園地バスツアー参加者感想より)

誰もが安心して暮らせる社会を

地域づくりボランティア応援補助金制度が いよいよ動き出しました

あいコープのジョイケアシステムは、組合員からの月100円の拠出金を活用して、組合員自身や地域福祉のために必要な活動を行っています。この度「地域づくりボランティア応援補助金」制度がスタート。地域福祉に繋がる活動をしている団体に1万円を補助金としてお出しする仕組みで、組合員が参加している団体であることが条件です。(23年度募集は10団体まで)

7月に配布された呼びかけに、お問い合わせ頂いた団体は25団体。そのうち11の団体から、詳しい活動内容の資料を添付して正式申請がありました。

現在理事会が、申請された各団体の方と面談を行っています。高齢者や障がい者、子どもなど、対象は様々ですが、地域福祉のためにと熱意を持って取り組む方々のお話を聞いています。

長年、高齢者が楽しめる場を提供している、音楽が得意な組合員さん。仕事で福祉に携わるだけでなく、自身の余暇さえも使い、障がい児やその親を支えるサークルを立ち上げた組合員さん。環境活動に力を入れ、月1回、少人数で地域のごみ拾いをしていく団体。笑顔溢れるパフォーマンスを提供し、孤立しがちな親子を支えるご夫婦。ジャンルは色々ですが、皆さんのボランティア精神に圧倒される面談が続いています。申請資料だけでは伝わらない「想い」をお聞きし、組合員の拠出金を適切な団体に活用してもらおうと思います。

組織運営室室長 豊嶋 馨

私のオススメ商品



私のおすすめ商品は、「鹿児島黒酢ドリンク」です。黒酢といえば、特有の匂いや味がするイメージがありますが、この商品は果汁とブレンドされており、フルーティーですっきりとした飲み口になっています。そのため、お酢が苦手な方でも飲みやすい商品です。また、美味しいだけでなく栄養素が豊富に含まれており、疲労感の改善など様々な効果が期待できると思われるので、健康的でオススメです。是非試してみてください。

事業部 供給課 天野 丈

編集後記

本紙4〜5ページでお伝えした通り、シャボン玉フォーラムinみやぎが無事閉幕しました。ホッとしたのも束の間、Wa!わあ祭り2023の準備も大詰めの中での編集作業となりました。この号がお手元に届くころにはお祭りも終わってしまいますね。楽しんでいただけたでしょうか・・・?

広報担当理事 石井 朱里

委員さん募集中!

あいコープの仲間と
食のこと
環境のこと
一緒に話しませんか?

お問い合わせ先
☎0120-255-044
Fax 0120-849-324
Email soshiki@mamma.coop
(担当: 組織運営室長 豊嶋)



組合員が利用できる電話相談

お申込み・お問合せは
ジョイケア事務局へ



0120-50-7277 平日 9:00~17:00

年金相談・12/12(火) 社会保険労務士 清野道子氏

13:30~15:30

法律相談・12/12(火)、12/20(水) 弁護士 倉林千枝子氏

13:30~15:30

子ども相談・12/19(火) 宮城教育大学教授 菅井裕行氏

10:00~12:00

*介護保険と傾聴は相談日のご希望を伺います。

介護相談 (ケアプランセンター木もれび 山崎彰子氏)

傾聴 (NPO法人仙台傾聴の会 森山英子氏)

▼随時予約可能です▼各相談窓口前週の金曜日までに予約して下さい▼金曜日が祝日の場合は直前の平日の受付時間まで受付します▼予約して頂いた方には、相談日に相談員からお電話を差し上げます。

ジョイケア NEWS

ジョイケアシステムは、あいコープみやぎ独自の地域福祉政策で、組合員全員の拠出金(100円/月)によって成り立っている助け合いの仕組みです。社会福祉法人「みんなの輪」、NPO法人「お茶っこケア」、ビッグイシューへの支援など、地域福祉にも役立てられています。個人で利用できるサービス(ささえあい/たすけあい/集団託児/慶弔・出産/電話相談)もあり、組合員同士の助け合いやケアメイトによる集団託児なども多く利用されています。

ジョイケア利用状況 (2023年9月分)

ささえあい(保険)	0件	◆集団託児	
たすけあい(ケア)	19件	利用延べ人数	4名
集団託児	2件	◆ケア時間	47時間
慶弔・出産	8件		
電話相談窓口	6件		
計	35件		



●牧場の空気をリアルで感じられました。暑さ、突然の大雨、匂い。画像だけではわからないことを肌で感じられたのがとても良かったです。(ながめやま牧場バスツアー参加者感想より)

みんなでパスちゃん牛乳のふるさとへ！ 放牧牛たちに会いに行きました



牛舎に戻ろうと 放牧地から集まってくる牛たち

一見、どこの牧場も同じなのでは？と思える牛舎ですが、多くの牛舎が牛を繋いでおくのに対し、ながめやま牧場は「フリーバーン」という自由に歩くことのできる牛舎を採用しています。なるほど、柵の向こうでは、ウッドチップのようなものが敷き詰められた床に寝そべる牛、座り込む牛、餌を食む牛…みんな自由です。この成牛舎では、牧草、とうもろこしや小麦、豆腐の搾りかす（おから）など数種類の原料を混ぜて作った餌を与える体験をしました。印象的だったのは牛たちの顔が穏やかなこと。初めは怖がっていた子もすぐに慣れ、牛たちの頭をなでることができました。放牧されているだけでなく、牛舎の中でも自由な環境で過ごすことで、ストレスがなく健康になり、お乳もおいしくなるんですね。

最後に市販牛乳とパスちゃん牛乳の味比べ！「やっぱりパスちゃん牛乳は美味しいねえ～」とおかわりする子もいました。数ある牛乳から『パスちゃん牛乳』を選び、ながめやま牧場の生産者さんと牛たちを応援しよう！という気持ちで牧場を後にしました。



ながめやま牧場が一望できる高台にて

山形県西置賜郡の飯豊ながめやま牧場は、あいコープの基幹商品の一つである「放牧パスちゃん牛乳」の生乳の産地。シルバーウィークの9月16日、恒例のツアーが4年ぶりに復活！総勢80名の参加者が牧場に行ってきました。

仙台から牧場までは昼食休憩込みで約3時間。バスの中ではあいコープの職員による事前学習の紙芝居を見たり、クイズや「放牧パスちゃんの歌」で大いに盛り上がりました。

牧場に到着、間近で見る大きな牛に子供たちも大興奮！参加者は3つのグループに分かれ、仔牛舎、パラレルパーラー（お乳を搾る施設）成牛舎を順番に見学し、仔牛舎では生まれたばかりの仔牛にミルクをあげる体験もできました。



仔牛にミルクをあげました



自由な牛舎「フリーバーン」



餌の材料をみんなでブレンド



美味しいかい？

参加者の感想から

- ◆牛ののびのびとした姿、生産者さんとの交流、全てが楽しかったです！仔牛のミルクを吸う力には、迫力がありました。
- ◆牛の健康、環境への配慮が素晴らしい。手間暇かけて育てていて、牛乳は安いと思った。職員さんが工夫して楽しいツアーにしていました！
- ◆自信を持って飼料まで公にできる酪農家さんは少ないと思う。これからも安心して飲めます！



↑パスの中で職員が居る紙芝居

女川原発の再稼働を止めよう！

市民の力で「紙面デモ」が成功しました

10月1日の河北新報朝刊19面をご覧になりましたか？全面で大きく「止めよう！女川原発再稼働」と訴える「紙面デモ」は、多くの市民の心の叫びです。

新聞の全面に掲載するには約5百万円の掲載料が必要です。資金はクラウドファンディングなどすべて賛同者のカンパで賄いました。つまり「お金を出してでも止めたい」と願う市民一人一人、あるいは団体がこの運動を支えたのです。賛同者全員の名前がとても小さく、しかし無数に書き連ねられ、紙面を埋め尽くしています。



10/1 河北新報朝刊 19面

今後の予定

12/1

LPAの会主催学習会

「家族が認知症かも？」と思った時に

場所／日立システムズホール仙台 エッグホール

時間／10：00～12：00 参加費／無料

女川原発が止まってから

4619 日目

(2023年11月1日現在)